大学院における学習成果を活用した院内教育の展開
—プリセプター支援研修の目標設定と評価—

富永明子（群馬県立民健康科学大学）

I. はじめに

筆者は、看護系短期大学を卒業後、小児専門病院に就職した。臨床経験が10年を経過した頃より、プリセプター役割を担う機会を得、後輩育成に向けた教育支援に携わるようになった。プリセプター役割に就任した際に、「指導計画に沿わずに場当たり的に指導をしていること」や「計画通りに指導が進まない」などの問題に直面した。また、この問題の原因が、「プリセプターである自分なのか」、「自分以外のプリセプターである新人看護師、周囲のスタッフなのか」という疑問を感じ、問題解決の方向性を見出せない。このような問題を解決するために、「教育に必要な知識・技術・態度を学びたい」実際のOJTで活用可能なアセスメントに関する研究成果を公表した

II. 大学院における学習成果

大学院における学習成果として、院内教育を展開する際の基盤となる教育学および看護教育学の知識を学習した。特に、教育目標の設定」と「目標に基づく評価」に関する知識は、大きな学習成果であった。

1. 教育目標の設定

大学院に進学する以前、筆者は自己の提供する新人看護師指導の必要性を考えていたが、自己の持っていた教育層が、何となく、「1年でこれ位」と経験的に考えていた。しかし、大学院の教育学や看護教育学に関する科目履修を通じ、教育目標は達成された場合に期待される状態についての明確な記述であり、その達成を評価する基準が定められていることである。「何を、どこまで、どうするのか」について相互に確認する必要がある。さらに、教育評価は学習者の到達度をあらかじめ設定した目標に達した状態を示すものであり、目標を変更する必要がある。
受持列挙するプ研修概念の役割に問題て、「新人看護師にどのような課題に直面するか」を明記するために、リセプターの役割を設定する。「新人看護師の役割を理解する」ため、筆者が設定した研修目的・目標・評価の実際について紹介する。

1. プリセプター支援研修の目標設定
研修目標を設定する際には、評価可能な行為動詞を用いた。

1）目的
プリセプターの役割を理解する。

２）目標
①プリセプターという用語を定義する。
②プリセプターという用語を定義する。
③プリセプターの役割7項目を記述する。
④指導内容と役割の相違を区別する。
⑤プリセプターの行動を表す概念を5つ以上列挙する。
⑥プリセプターの役割を果たすために必要な各自の課題を述べる。

2. 研修に対する評価
設定した目標の達成に向け、パワーポイント画面と配付資料を用い、具体例や事例・経験談を取り入れながら研修を展開した。例えば、プリセプターの「新人看護師が業務を継続できるよう問題現象の解釈や心理的支援を行う」という役割を説明する際には、「勤務時間内に新人看護師との振返りを行う必要がある場合には振返りに集中できるよう、場所を確保したり、プリセプティの受け持ちクライエントのケアを他のスタッフに依頼したりすること」と、参加者の理解促進につながる説明を加えた。参加者からは、「自分がプリセプターとして新人看護師にどのように関わったらよいのか具体的にわかった。」「プリセプターには新人看護師の状況を把握しながら事故防止にも努める役割があることがわかった。」などの感想を得た。研修の評価には、筆者が参加者の研修中の発言内容やディスカッションへの発言内容を観察することによる他者評価を採用した。しかし、筆者自身の観察能力が未熟であり、参加者の表情や発言内容から研修の達成度を評価することが困難であった。また、成人学習者である参加者の自己評価による学習課題の明確化という利点や相互評価の有用性を学習していたが、参加者への負担を考え、自己評価を採用していなかった。研修の確実な評価に向け、目標を反映した評価用紙を作成する、授業過程の評価スケールを活用する、評価のための時間を設ける、などの方法を検討する必要があったと考える。

3. 自己の課題
大学院において目標に基づく評価の重要性を学習したにも関わらず、現在も、筆者は目標を設定することに悩む。評価活動の検討に注意を払えていない。展開した研修への自己評価、他者評価を相互に取り入れ、研修内容や教授活動を再検討することは、よりよい研修の構築につながる。研修提供者としての自己の課題を明確化するためにも研修の評価に関する学習を継続する必要がある。

IV. おわりに
臨床経験を積み重ねることにより、看護技術を習得することは可能であった。しかし、看護教育を提供する立場になり、教育に必要な知識・技術を自己学習のみで習得するには限界を感じていた。この問題を解決するために進学した大学院において、教育学および看護学教育に関する知識に加え、問題解決に必要な行動と自己教育力についても学習した。今後も、数多く直面する問題の解決に向け、成人学習者として主体的な学習を継続していきたい。

【引用文献】
1) 植田敏一：教育評価－第2版補訂2版，有斐閣双書，81，2010。
2) 杉森みどり他：看護教育学第5版増補版，医学書院，140，2014。
3) Oermann, M. H.；舟島などを監訳：看護学教育における講義・演習・実習の評価，医学書院，3，2001。
4) 舟島などを編：院内教育プログラムの立案・実施・評価，医学書院，38，2007。
5) 前掲書 4)，100。